



帰らない夏と消えないあのメロディー ／竹仲絵里

YRCN-90033 YOSHIMOTO R and C.LTD. 1050 円
フジテレビ系「THEY!THEY!THEY!MUSIC CHAMP」のエンディングテーマに選ばれた最新作。変調やフェイクの入れ方など、文章に例えるなら句読点のハッキリした、読後感には区麗情あたりを想起させる楽曲。ギブソンのアコースティックギター、ネイティブ・アメリカンなアクセがモノクロームにたたずんでいるジャケット写真に、音楽的ルーツが見える。



取材・文／竹中 聡(本誌) 撮影／鈴木誠一

竹仲絵里 たけなか・えり

'80年11月15日生まれ、AB型。父親の影響で、幼い頃からジョニ・ミッチェルやキャロル・キングなどを聴いて育つ。彼女たち、'70年代ミュージックシーンで輝いた女性シンガーやミュージシャン、とりわけカレン・カーペンターの声に惚れ込み、歌い始める。ちなみに「よーじや」の「よーじや水」がお気に入り。
<http://usmusic.co.jp/portal/artist/takenaka/>

PPS

POWER PLAY SOUND
Music is moistened our life. Tasteful album is here.
We'd like to find your recommended one.

JAPANESE EDITION

CARPENTERS GOLD

GREATEST HITS

CARPENTERS GOLD GREATEST HITS

／カーペンターズ
UICY-1100 UNIVERSAL MUSIC 2243 円

本文にあるとおり、カレン・カーペンターは自らの声に自信を与えてくれた救世主であった。もちろん名曲揃いではあるが、リコメンドの理由のひとつは「声」である、というところがシンガーの切実さ、ということである

recommend 01

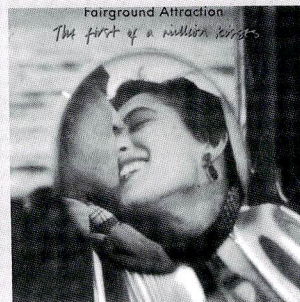
NO IMAGE

ニューシネマパラダイス サウンドトラック

CPC8-1218 2520 円

音楽／エンニオ・モリコーネ、ハリウッド的なメジャー作品ではないが、「ラストシーンでは涙が止まらない」という名作のサウンドトラックをノミネイト。泣くことがストレス解放、というのを地で行ったのだろうか

recommend 02



The First Of A Million Kisses ／Fairground Attraction

「リコメンドを3作」でかなり迷っていたところ、「ひょっとして好きなのは？」と水を向けたら即答で「それ! 3作目で!」となった1枚。朗らかな曲調は、なるほど! 分かる! という名作。M-2「PERFECT」はまさに「完璧」。

recommend 03

コンプレックスも恥ずかしさも越え たどり着いた、ストレス・フリー

この細い身体で、どこにそんな体力があるのだろうか? 久しぶりに京都を訪れた竹仲絵里が、昼食ヌキで訪れたのは養源院や三十三間堂だった。養源院では血天井の向こうにある物語に深く思いを馳せ、三十三間堂では「友人の顔は見つかりませんでした」と笑う。「歴史好き、というか『由来好き』なんです」。今、目の前にあるものや耳にしているものの、起源がどこにあるのか。そういったことを、ときに調べ物をしたり、ときには想像することで追う作業は楽しいものだ。

子供の頃、歌は好きだったが、学校ではいつもアルトパートを歌わされた(という言い方は語弊があるかもしれないが…)。「子供にしては声が低かったんでしょうね。ソプラノじゃない(笑)」。そこに現れたのがカレン・カーペンターだった。「女性の(声の)中低音の良さっていうものを教えてもらって、それまでのコンプレックスがV字回復しました(笑)」。

自分は歌ってもかまわないんだ。そう思えた瞬間の嬉しさはいかばかりだったか。元来、シンガーとしては詞から入ったという女性である。それまでに書きためた詞

(というか言葉)を、それだけで見せるのは恥ずかしい。「そこに音符を乗けると、恥ずかしくないって思ったんです。音符の力を借りてみよう、と」。それを、「音楽」という。そのことに、当時の彼女が気づいたかどうかは分からないが、かくしてシンガーソングライターがひとり、できあがっていくわけである。

「声に対するコンプレックス」や「言葉だけを読ませる恥ずかしさ」、といったものから解き放たれること、つまりそれはストレスからの解放を意味する。彼女がつくる歌のテーマが、そこで決定したのではないかと、思うのだが、どうだろう。

歌を唄うこと、そして聴くこと。もしくはつくること。泣くために聴く人もいるだろう。笑うために聴く人もいるだろう。唄う側からすれば、「私の歌で幸せになって欲しい」「泣いて欲しい」があってもかまわない。「泣くことも一種の快樂である」とは至言である。

ただ、そのどれもがストレスフリーであること。竹仲絵里というシンガーが、歌(少なくとも自分が唄う)に託した仕事は、まさにそんなところなのでは、ないだろうか。